

天然ブリ仔資源保護培養のための基礎調査実験*

抄録

紀伊水道海域における若年ブリの標識放流結果について

杉村 允三

目 的

日本栽培漁業協会が実施する天然ブリ幼稚魚資源保護培養実験の一環として、既往の資源生態調査を踏まえ、来遊機構の解明に不可欠なブリ幼稚魚期の分布・行動生態についての基礎的事項を明らかにすると同時に、天然ブリ幼稚魚資源の保護培養実験のより充実した進展に期することを目的とする。本年度実施した調査事業の成果の詳細は「天然ブリ仔資源保護培養のための基礎調査実験 昭和57年度報告」に報告されている。

方 法

当海域は幼魚から2,3才魚までの若年ブリ育成海域であり各漁業の利用頻度が高いことから、ブリ幼稚魚期の生態を知るための手法として若年ブリ(ツバス)の標識放流を行った。その再捕結果等から紀伊水道内外域並びに枯木灘海域を主にした移動回遊を把握するため放流海域別に移動等の検討を試みた。

なお、放流海域は、日ノ御埼260度(直方位)2海里及び6海里点であり、放流尾数は各々1,012尾、898尾であった。

結 果

- 1) 当海域は、2,3才魚までの若年ブリの南下・北上域であると共に、索餌・滞留海域であることから重要育成場でもある。
- 2) 若年ブリは向岸性が強く、僅かな放流点及び時間差によって移動方向に変化が見られる。
- 3) 定置・刺網漁業ばかりではなく、火光を利用しイワシ・アジ・サバ類を漁獲対象にする棒受網漁業によっても再捕され集光性のあることを示した。
- 4) 放流海域並びにその周辺域の環境条件の変化のみならず、餌料条件によっても移動を促進させその速度にも影響を及ぼす。
- 5) 若年ブリの越冬場は、大部分が紀伊水道外域の沿岸部であり、一部は南下回遊を行わず内部域に滞留する。
- 6) 紀伊水道という海域でのローカル性の強い若年ブリの南北方向への移動速度は、 0.06 km/h 以下で太平洋産卵索餌南下親魚群の $\frac{1}{10}$ 程度である。

* 天然ブリ仔資源生態調査委託事業費による。